幸袋校小学部だより

令和5年12月11日(月)第17号
小学校長　松隈　崇世

学校教育目標　自ら学び、仲間とともに夢の実現をめざして挑戦する子どもの育成

【自律】自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、行動し、自分の学びを高め続ける子

【協働】自他に優しい思いやりの心とスキルを持ち、人間関係を豊かに築き自分の力を他者のために活かそうとする子

【創造】前向きな生き方や目標を持ち、実現に向けて意欲的に取り組む子

６年生　こどもくらしっくコンサート

１２月６日（水）、コスモスコモンで行われた「こどもくらしっくコンサート」に行ってきました。今年度は、飯塚高校吹奏楽部の皆さんの演奏でした。ジブリよりトトロメドレー、クリスマスソングメドレー、アニソンメドレー等、盛りだくさんの内容で、私たちを楽しませてくれました。とても楽しい時間でした。

今回飯塚市、嘉麻市、桂川町から小学６年生約９００名ほどがこのコンサートを聴きに来ていたのですが、６年生のみんなは実によい聴き手でした。飯塚高校吹奏楽部の皆さんが上手な演奏者であったのはもちろんですが、聴いている６年生が、音楽に合わせて手拍子をしたり、一緒に振りつけを踊ったり、演奏後には大きな拍手を送ったりして演奏者を乗せ、より良い演奏を引き出していると感じました。すばらしいですね。

ところで、この演奏会の中で、指揮者の先生が、素敵な話をされていました。先生は、６年生の子どもたちに、「最前列に座っている木管楽器の子たちがどうやって後ろのみんなと音を合わせていると思いますか？」と尋ねられました。指揮者を見ているだけではないというのです。指揮者がいなくて自分たちだけで練習するときもピタッと音が合うといいます。答えは、「勘と、気配と、思いやり」だそうです。先生は、これは人生においての人付き合いにも通じるのではないかと話されました。相手が思っていることや考えていることを思いやり、想像し、それを感じて自分を合わせていく・・。（または自分を出していく。）そうすれば、人と人の間に心地よいハーモニーが生まれると・・。なるほど、飯塚高校吹奏楽部の皆さんが、みんなを思いやり、心を一つにして生み出した音は、やさしくて、力強くて、生き生きとしていました。あの素敵な音のように、人と人とのハーモニーも素敵に奏でていきたいですね。

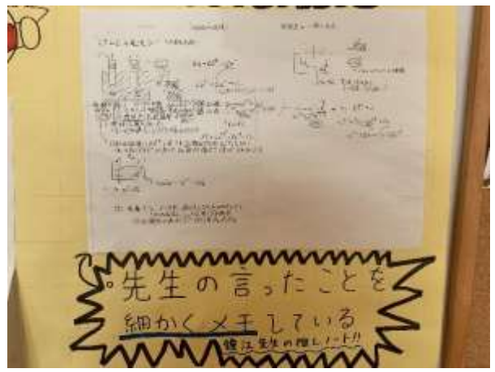
３月３日には、飯塚高校吹奏楽部の皆さんの定期演奏会があるそうです。興味のある方は、ぜひ親子で参加されてはいかがでしょうか。

モデルノートが出揃いました

学習文化委員会における小中合同委員会の取組で、1年生から9年生までのモデルノートが昇降口の掲示板に貼り出されました。

どの学年のノートもさすがモデルノートに選ばれるだけあって、丁寧に書かれています。そして、学年が上がるごとに文字が小さくなり、黒板に書かれたことだけではなく、先生が話されたことをメモリしたり、自分が調べたことを書き足したりしていく様子が見られました。発達段階に沿って、自分のために学習するのだということがだんだんわかってくると、ノートの取り方も変わっていくのだなと感心しました。

たくさんの子どもたちが、これらのモデルノートを見て、自分に活かしたり、お手本にしたりしてほしいですね。ノートは自分の考えの足跡です。丁寧に残せば、それは自分自身の中にも確かなものとなって残ると思います。自分のためのノートです。面倒がらずに丁寧に書いてほしいと思います。



くつ箱が一番きれいだったのは？

幸袋校開校以来続けている取組があります。「靴の踵を靴箱の手前に揃える取組」です。靴の踵を靴箱の手前に揃えるとビシッと揃ってとても美しいのです。

12月6日の朝、抜き打ちで靴箱を見に行きました。全学年の中でピカー靴が揃っていたのは、6年3組でした！ この日、私に見られるとは全く思っていなかったはずなのにこの美しさです。「いつもきれいに！」という意識が高く、感心しました。

その他の学年も、まぁだいたい揃っていたのですが、せっかくの取組です。まぁだいたいではもったいない！ 6の3のようにビシッと揃えて、幸袋校の靴箱はいつ見ても気持ちいいなぁと訪れた人に思ってほしいです。

年の瀬が近づいてきました。12月の行事といえば、子どもにとっては「クリスマス！」ですが、冬至、暮れの大掃除、大晦日と日本らしい行事もぜひ味わってほしいと思います。年が明けると、お正月、初詣、七草粥、鏡開き・・・と続きます。世界で日本文化のすばらしさがたくさん取り上げられている今、私たち日本人がその良さを感じられないのは少し残念です。何か一つでも家族で味わってみてくださいね。